

鳥取県の犬及び猫のデータ（平成29年度）

1 犬の登録、狂犬病予防注射実施頭数

平成29年度末の県内の犬の登録頭数は22,874頭で引き続き減少傾向にあります。狂犬病予防注射実施率は76%であり前年度からわずかに上昇し、平成29年度の全国平均71.4%を上回りました。

区分	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
新規登録数	2,409	1,969	1,880	1,854	1,665	1,991	1,940	1,815	2,089	1,451	1,426
登録総数	29,306	29,140	28,069	27,283	26,536	26,351	25,409	24,673	24,456	23,786	22,874
狂犬病予防注射済票交付数	19,798	19,477	19,515	18,591	18,275	18,830	18,945	18,255	18,102	17,696	17,373
予防注射率	68%	67%	70%	68%	69%	71%	75%	74%	74%	74%	76%

2 犬・猫の収容及び引取りの現状

犬の平成29年度の収容・引取り頭数は173頭（うち保護※7頭）で、前年度（207頭）から更に減少しました。このうち、放浪している犬の収容（捕獲）数は151頭でしたが、このうち身元表示がされていた犬は4頭（犬鑑札0頭、狂犬病予防注射済票2頭、マイクロチップ2頭）のみであり、ほとんどの犬で迷子札や法律で義務づけられている犬の鑑札・狂犬病予防注射済票はつけられていませんでした。（※保護・・・傷病、死体収容。猫も同じ。）

猫の収容・引取り数は398頭で、所有者からの引取り及び所有者不明の猫の引取りは309頭に減少したものの、保護頭数は前年度より増加し89頭でした。所有者のいない猫を捕獲して不妊去勢手術を施し、元いた場所に戻し一代限りの命を全うするTNRの猫が増えており、不妊去勢手術を施した飼い猫も増えたため、引取りの頭数が減少したと推測されます。

【犬・猫の収容数及び引取数（平成19年度～平成29年度）】

	区分	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
犬	収容	530	398	342	264	301	261	257	209	186	181	151
	保護		6	15	23	15	4	6	14	1	13	7
	所有者引取り	318	210	160	115	107	90	53	23	17	9	15
	所有者不明引取り	22	8	23	0	7	13	4	4	3	4	0
	収容合計	870	622	540	402	430	368	320	250	207	207	173
猫	所有者引取り	1,015	614	418	327	196	307	265	228	79	107	52
	所有者不明引取り	896	1,017	871	818	988	788	811	803	716	496	257
	保護	453	168	101	156	77	96	85	76	76	59	89
	収容合計	2,364	1,799	1,390	1,301	1,261	1,191	1,161	1,107	871	662	398
犬猫合計		3,234	2,421	1,930	1,703	1,691	1,559	1,481	1,357	1,078	869	571



3 犬・猫の返還、譲渡及び殺処分の現状

犬の平成 29 年度は収容・引取り頭数 173 頭に対し、返還頭数は 102 頭（前年度 87 頭）、譲渡頭数は 79 頭（前年度 87 頭）であり、返還・譲渡率は 100%以上と前年度（84%）と比べ上昇しました。これは死体収容や、収容後に傷病等で死亡した頭数が、前年度 15 頭から平成 29 年度は 3 頭に減少したことが主な要因です。

平成 29 年度の猫の返還・譲渡率は 43%と年々向上しています。これは、ボランティアと連携して開催した譲渡会の開催等により譲渡が進んだため、依然として飼い主へ返還出来たケースはほとんどありませんでした。屋外と屋内を自由に出入りしながら生活している猫の場合、戻らないと飼い主があきらめてしまうことが多いと推察されます。

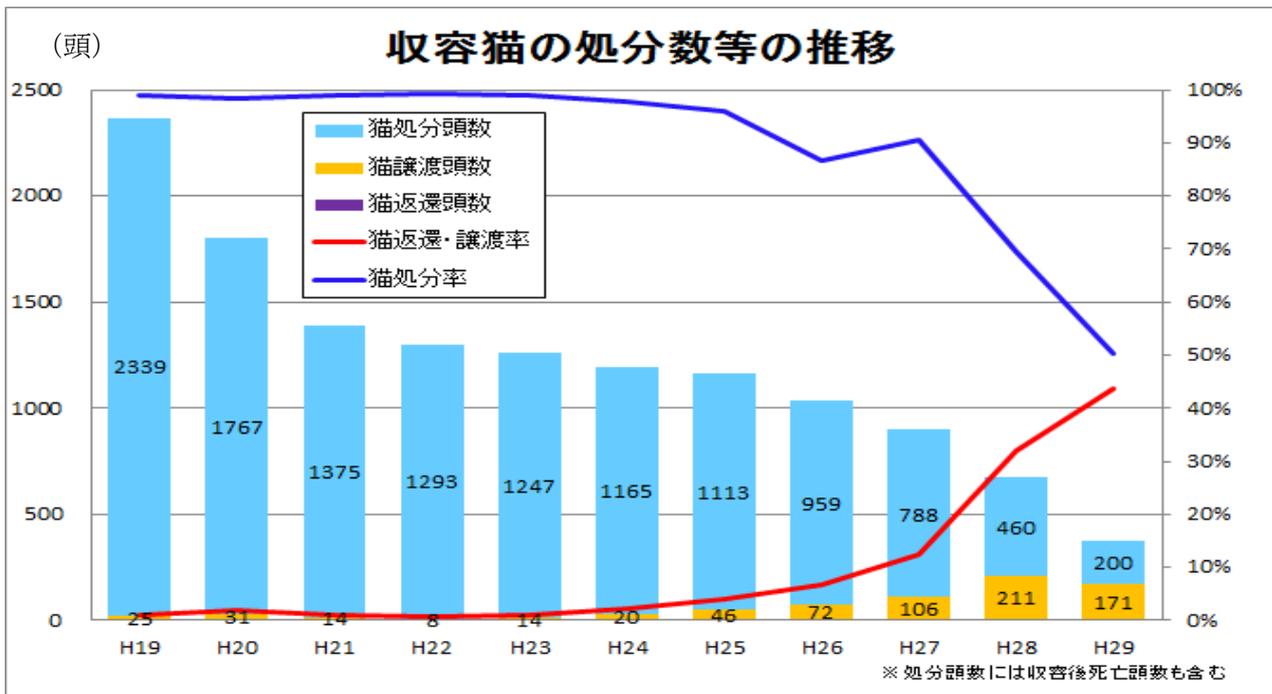
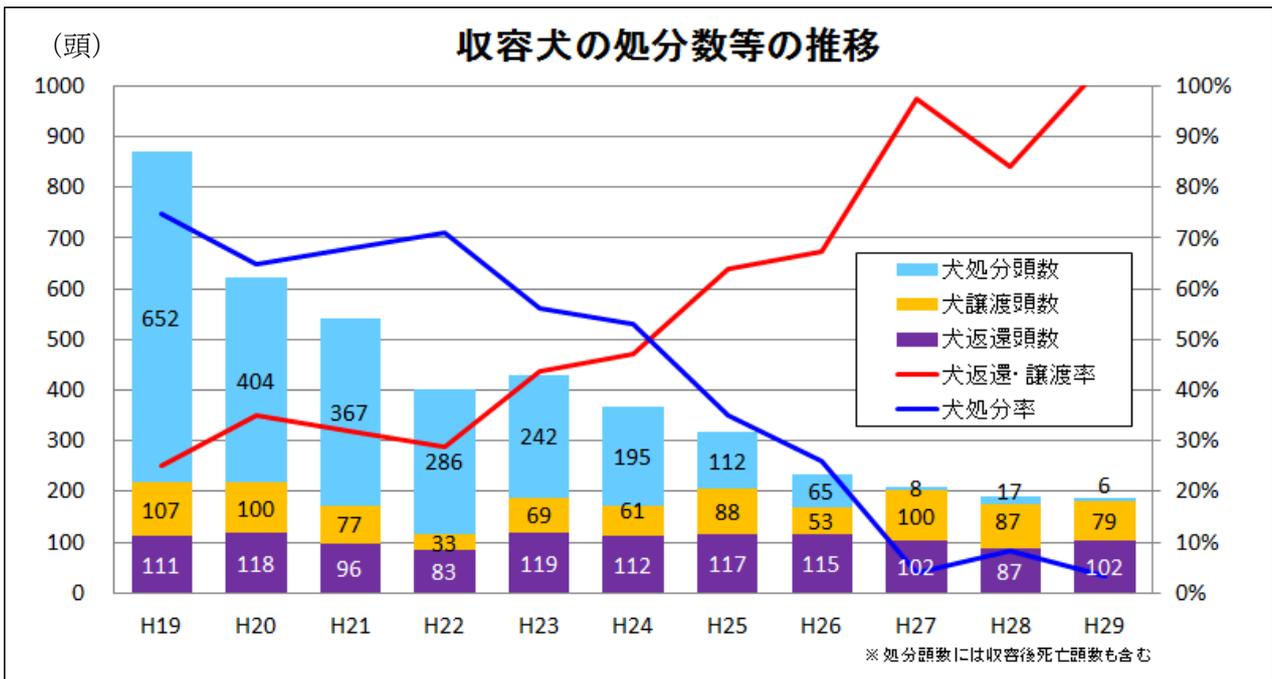
なお、県の動物愛護センターとなっている公益財団法人動物臨床医学研究所人と動物の未来センター“アミティエ”へ、県から犬 31 頭、猫 41 頭を譲渡しました。

【犬・猫の返還数、譲渡数、処分数（平成 19 年度～平成 29 年度）】

		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
犬	返還数	111	118	96	83	119	112	117	115	102	87	102
	譲渡数	107	100	77	33	69	61	88	53	100	87	79
	返還・譲渡率	25%	35%	32%	29%	44%	47%	64%	67%	98%	84%	105%
	処分数 ※上段は致死処分数、 下段は収容後の死亡数	652	404	367	286	242	195	101	51	8	6	3
							14	14	0	11	3	
猫	返還数		1	1	0	0	6	2	2	3	1	3
	譲渡数	25	31	14	8	14	20	46	72	106	211	171
	返還・譲渡率	1.1%	1.8%	1.1%	0.6%	1.1%	2.2%	4.1%	6.7%	12.5%	31.2%	43.7%
	処分数 ※上段は致死処分数、 下段は収容後の死亡数	2,339	1,767	1,375	1,293	1,247	1,165	881	754	611	331	120
							232	205	177	129	80	

【数値についての注意】

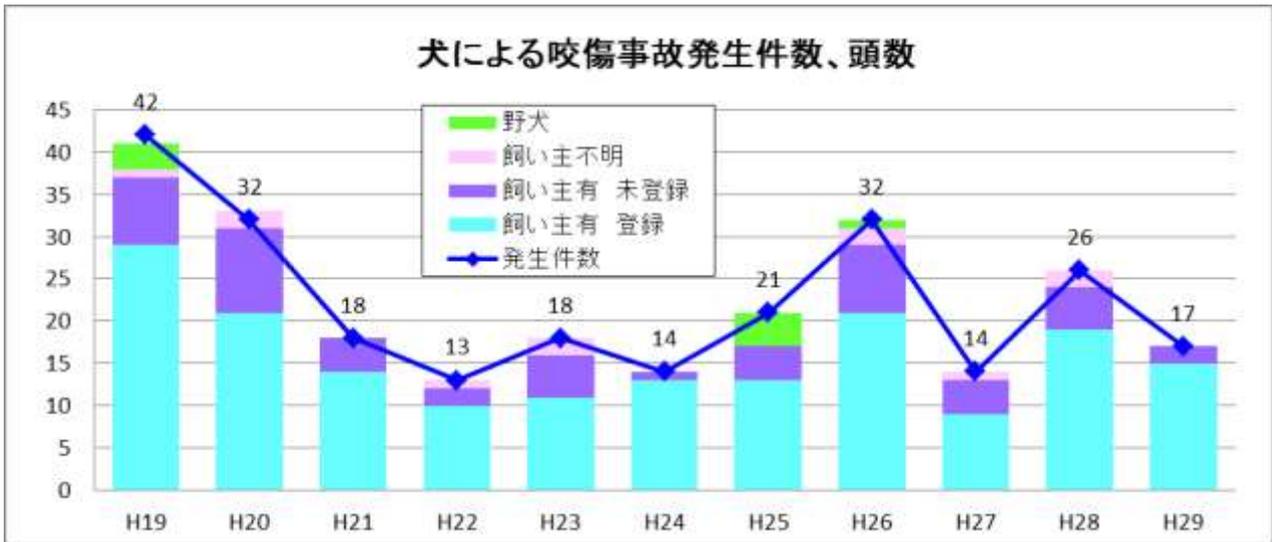
- ・返還・譲渡・処分の統計値は、平成 25 年度までは収容日としていましたが、平成 26 年度からは実施日を基点としています。このため、平成 26 年度からは収容数と返還・譲渡・処分の合計数は一致しません。
- ・平成 25 年度から、処分数を致死処分と収容後の死亡数に区分して集計しています。その他の処分（死体での収容等）は含みません。



4 その他

(1) 犬による咬傷事故

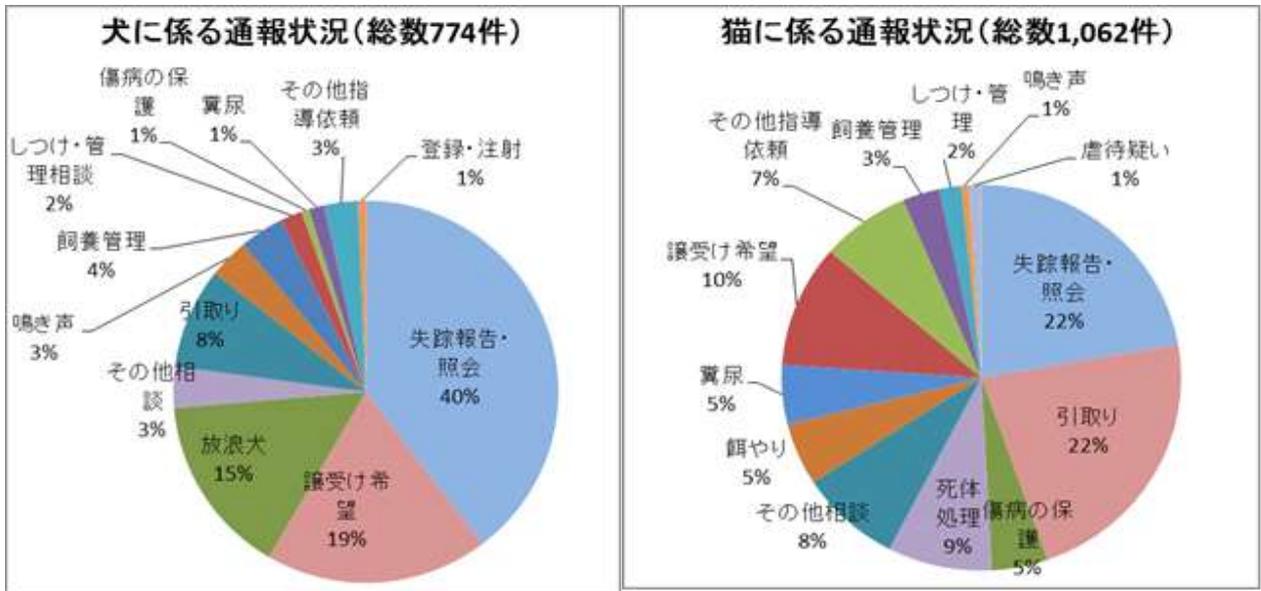
平成 29 年度の咬傷事故件数は、17 件（17 頭）で、前年度（26 件、26 頭）に比べ減少しました。すべてが飼い犬による事故で、このうち未登録の犬は 2 頭でした。係留中の咬傷事故が 7 件発生していますので、飼い主は係留中も周りの人に危害や迷惑をかけないように常に注意・措置をすることが重要です。



(2) 動物に係る通報状況

東部生活環境事務所及び中部・西部総合事務所（以下「各事務所」という。）で受けた動物に関する通報件数は犬 765 件（前年度 1,121 件）、猫 1,062 件（前年度 1,123 件）であり、犬については大きく減少しました。

通報の内訳は、犬、猫ともに行方不明の報告、収容や保護された犬猫の照会の占める割合が一番多くなっています。犬については、鑑札・注射済票の装着、猫は迷子札やマイクロチップの装着により、速やかに所有者の元に帰ることができます。猫は引取り相談も 22% と多く、望まない繁殖を防ぐためには不妊去勢手術が必要です。



(3) 引取り依頼の理由

平成 29 年度に各事務所で受けた所有者等からの引取り依頼の相談件数は、犬 66 件（前年度 62 件）、猫 238 件（前年度 351 件）と猫の件数が減少しました。

犬の引取りで最も多かった理由は、昨年度と同様「飼い主の病気・死亡等」と「動物の老齢、傷病等」でした。犬と猫の寿命は長くなっています。飼い主の責務として、飼い主に万が一のことがあった場合にペットをどうするか決めておく必要があります。

猫の引取りで最も多かった理由は、前年度と同様「所有者不明の猫の拾得」でした。所有者からの引取り依頼に対し、各事務所が引取りを拒否（説諭も含む）したものは136件あり、うち52件は所有者が新しい飼い主を探す取り組みをしていなかったためでした。終生飼養が原則ですが、やむを得ない理由で飼っている犬や猫を手放す時は、飼い主の責任として新しい飼い主を探していただくことが求められます

【引取り依頼相談の内容（件）】（ ）は前年度

	所有者不明 (拾得)	転居	繁殖制 限未実 施	飼い主の 病気・死 亡等	動物の 老齢・ 傷病等	経済的 理由	問題 行動	近所から の苦情	その他	合計
犬	0(4)	10(7)	0(0)	14(20)	14(3)	1(2)	1(2)	0(4)	26(20)	66(62)
猫	133(236)	6(5)	15(17)	24(33)	5(3)	7(11)	0(6)	16(12)	32(28)	238(351)

(4) 地域による特徴

ア 狂犬病予防注射接種

犬の登録頭数はほぼ地域の人口に比例していますが、登録頭数に対する予防注射済票交付数の割合（以下「予防注射接種率」）は、昨年度と変わらず東部地域が高く西部地域が低い状況です。西部地域の中でも市町村別でみると、予防注射接種率は67.8%から95.7%と大きく差がありました。集合注射の接種割合は平成28年度の38.9%から34.2%に減少し、動物病院での予防接種をする飼い主が増えたことが示唆されました。

平成29年度市町村別犬の登録・狂犬病予防注射実績

自治体	登録頭数 (期末現在) A	予防注射済票交付数			予防注射 接種率 (%)	(参考) H28年度 予防注射 接種率
		集合注射	個人注 射	計		
鳥取市	7,082	1,895	3,708	5,603	79.1%	79.2%
岩美町	455	160	195	355	78.0%	76.0%
八頭町	671	315	224	539	80.3%	78.9%
智頭町	265	130	84	214	80.8%	78.2%
若桜町	124	65	33	98	79.0%	63.6%
小計	8,597	2,565	4,244	6,809	79.2%	78.7%
倉吉市	1,865	584	793	1,377	73.8%	73.9%
湯梨浜町	591	176	388	564	95.4%	94.4%
三朝町	236	73	123	196	83.1%	76.5%
北栄町	787	220	343	563	71.5%	70.0%
琴浦町	788	247	375	622	78.9%	68.4%
小計	4,267	1,300	2,022	3,322	77.9%	75.1%
米子市	6,169	817	3,367	4,184	67.8%	67.0%
境港市	1,524	347	813	1,160	76.1%	74.0%
南部町	467	129	239	368	78.8%	60.0%
伯耆町	620	158	273	431	69.5%	71.2%
日吉津村	151	78	43	121	80.1%	85.0%
大山町	588	280	274	554	94.2%	90.8%
日南町	196	121	36	157	80.1%	78.5%
日野町	133	61	51	112	84.2%	79.7%
江府町	162	89	66	155	95.7%	93.9%
小計	10,010	2,080	5,162	7,242	72.3%	70.4%
鳥取県	22,874	5,945	11,428	17,373	76.0%	74.4%

イ 市町村別の猫の引取り及び返還・譲渡・処分状況

猫の引取り数は平成 28 年度と比較して減少していますが、依然として西部地域で多い結果となっています。また、市街地が多い市部で引取り数が多い傾向がみられますが、郡部でも件数が多い町もあります。不妊去勢手術による繁殖制限の推進は、市街地だけでなく郡部でも必要です。

平成29年度 市町村別の猫の引取り及び返還・譲渡・処分状況

自治体	猫の引取り頭数 (保護も含む)				返還・譲渡・処分頭数				
	成猫	子猫(90日 齢以内)	計	(参考) H28年度計	返還	譲渡	致死処分	収容後死亡	合計
鳥取市	15	34	49	160	0	26	15	5	46
岩美町	0	0	0	5	0	0	0	0	0
八頭町	1	0	1	39	0	0	0	0	0
智頭町	1	0	1	1	0	1	0	0	1
若桜町	0	0	0	2	0	0	0	0	0
小計	17	34	51	207	0	27	15	5	47
倉吉市	16	16	32	38	0	19	4	5	28
湯梨浜町	2	8	10	3	0	4	5	1	10
三朝町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北栄町	2	3	5	21	0	1	3	1	5
琴浦町	0	10	10	16	0	10	0	0	10
小計	20	37	57	78	0	34	12	7	53
米子市	67	115	182	221	2	59	66	46	173
境港市	18	22	40	37	0	22	8	10	40
南部町	1	11	12	25	0	10	2	0	12
伯耆町	3	7	10	34	0	3	6	0	9
日吉津村	0	18	18	3	1	5	6	6	18
大山町	9	13	22	15	0	8	2	5	15
日南町	5	0	5	31	0	3	3	0	6
日野町	1	0	1	3	0	0	0	1	1
江府町	0	0	0	8	0	0	0	0	0
小計	104	186	290	377	3	110	93	68	274
鳥取県 合計	141	257	398	662	3	171	120	80	374